

下大利支店オープン式



JA筑紫は10月7日、大野城市下大利でJA下大利支店オープン式を行いました。

当日は、JA理事や地元総代、関係業者など約50名が参加。テープカットを行い、新しい店舗で営業を始めました。

新店舗は、2019年4月から工事を開始。建物内は、全てLED照明を使用するなど、環境に配慮した造りになっています。

白水清博組合長は「これからもより一層、地域の皆様のお役に立てるよう役職員一同、尽力していきます」と挨拶しました。

組合長が児童に稲刈り授業の指導



JA筑紫の白水清博組合長とJA青壮年部は、春日市立大谷小学校5年生の児童に稲刈りの授業を行いました。児童の食農教育をサポートする目的で、15年以上実施しています。

白水組合長は、鎌の使い方や稲の刈り取り方を説明。児童は、鎌を手に田んぼに入り、慣れない手つきで稲を刈りました。初めて稲刈りをした児童は「とても楽しかった。刈り取ったお米を早く食べてみたい」と笑顔で話しました。また大切に育てた米を無駄にしたいという思いで、落ちた米を1粒1粒大切に拾う姿が見られました。

収穫した米は後日、児童がおにぎりにして白水組合長と一緒に味わう予定です。

稲の収穫に感謝



太宰府市観世音寺の太宰府天満宮齋田で、実った稲穂を刈り取り神々に収穫を感謝する伝統神事「抜穂祭」がありました。

齋田横に設けた齋場での祭典を行った後、天満宮の巫女(みこ)が「悠久の舞」を奉納。初めに宮司が齋田に入り、古式の作法にのっとり石包丁で稲穂を刈り取り、菅笠にもんぺ姿の巫女(みこ)や氏子なども続きました。

この日収穫した米は、6月の齋田御田植祭で植え付け、大切に育ててきたもの。11月の新嘗祭で最初にお供えします。その後、天神さまへの朝夕のお供えや、太宰府天満宮の全ての祭典や神事で用います。

安全安心まちづくり



JA筑紫は、福岡県大野城市で開かれた2019年筑紫地区安全安心まちづくり推進大会で「筑紫地区安全安心まちづくり推進協議会長賞」を10年連続で受賞しました。

JAは、07年度に「JA筑紫安全安心まちづくり隊」を結成。青色パトロール活動や公用車、渉外担当者による地域の防犯活動、二セ電話詐欺の防止などを積極的に行っています。また、組合員向けのJA広報誌に毎号、安全安心まちづくりについての情報を掲載している。今回の受賞は、これらの活動が評価されたものです。

また、大野城市で貢献した団体として農産物直売所ゆめ畑大野城店も受賞しました。

JA筑紫共済友の会招待会



JA筑紫は、10月22日と24日の2日間、共済友の会招待会を福岡市の博多座で開きました。会員へ日頃の感謝を込めて毎年開き、多くの会員が待ち望む好評のイベント。今年は、大地真央氏主演の「ふるあめりかに袖はぬらさじ」の夜の部を観劇。2日間で1513人の会員が参加しました。

同公演は、攘夷と開港の争いで騒然とする幕末の横浜を舞台に、ひたむきに生きた人間たちの姿を描いた物語。会場は、参加者の感動に包まれました。

公演終了後は、JAの白水清博組合長と役員が、出演者に筑紫米と博多和牛、花束をプレゼントし、地元農畜産物とJAをPRしました。

笑いで生活を豊かに



JA筑紫女性部は10月29日、JA本店でゴールドミセス学級を開き、42人の女性部員が参加しました。

NPO法人博多笑い塾理事長の小ノ上マン太朗さんが「人と社会の健康をつくる笑い学」の演題で講演を行い、小ノ上さんは「笑いは生活を豊かにするので、毎日笑顔で過ごしましょう」と呼びかけました。

会場は、女性部員の明るい笑い声に包まれました。